

《薬局サーベイランスコメント》

『インフルエンザの推定患者数はここへきて急激に増加してきており、12月中に流行開始となる可能性もあるが、本格的な流行は1月以降』

2015年12月22日
済生会中津病院感染管理室
安井 良則

薬 局 サ ー ベ イ ラ ン ス

(http://prescription.orca.med.or.jp/syndromic/kanjyasuikei/flu/2015_16/index.html) からの2015年第51週(12月14~20日)のインフルエンザの推定患者数は19,531であり、前週の値(第50週:11,984)を大きく上回って3週連続の増加となりました。未だ過去5シーズン(2010/2011シーズン~2014/2015シーズンの同時期と比較して最も低い値を推移していること)に変わりはありません(図1)が、休日明けの第52週の月曜日(12月21日)の推定患者数は5,746と前週の月曜日の値(4,218)よりも大きく増加しており、2015年は第53週までであることから12月中に1週間の推定患者数が30,000を上回って流行開始となる可能性があります。各都道府県別の第51週の人口1万人当たりの1週間の推定受診者数をみると秋田県、北海道、福井県、新潟県、奈良県、沖縄県、島根県、東京都、和歌山県、広島県の順となっています。

2015年第36週から第51週までの累積の推定患者数は、87,018(約87,000人)であり、年齢群別では5~9歳(13.9%)、30~39歳(13.2%)、40~49歳(13.1%)、10~14歳(11.6%)、20~29歳(10.4%)、50~59歳(9.5%)、0~4歳(9.1%)の順となっています。

国立感染症研究所感染症疫学センターの病原微生物情報(<https://nesid3g.mhlw.go.jp/Byogentai/Pdf/data2j.pdf>)によると、これまでのインフルエンザ患者由来検体から検出されたインフルエンザウイルス(175検体解析)は、A/H3(A香港)亜型45.7%、A/H1pdm30.3%、B型24.0%の順であり、A/H1pdmの割合が増加しています。

インフルエンザの推定患者数は、ここへきて急激な増加を示しており、12月中に流行が開始となる可能性も出てきました。一方で全国の学校の冬季休暇の影響もあり、本格的な流行は1月以降になると予想されます。今後とも患者数の推移には注意深い観察が必要です。

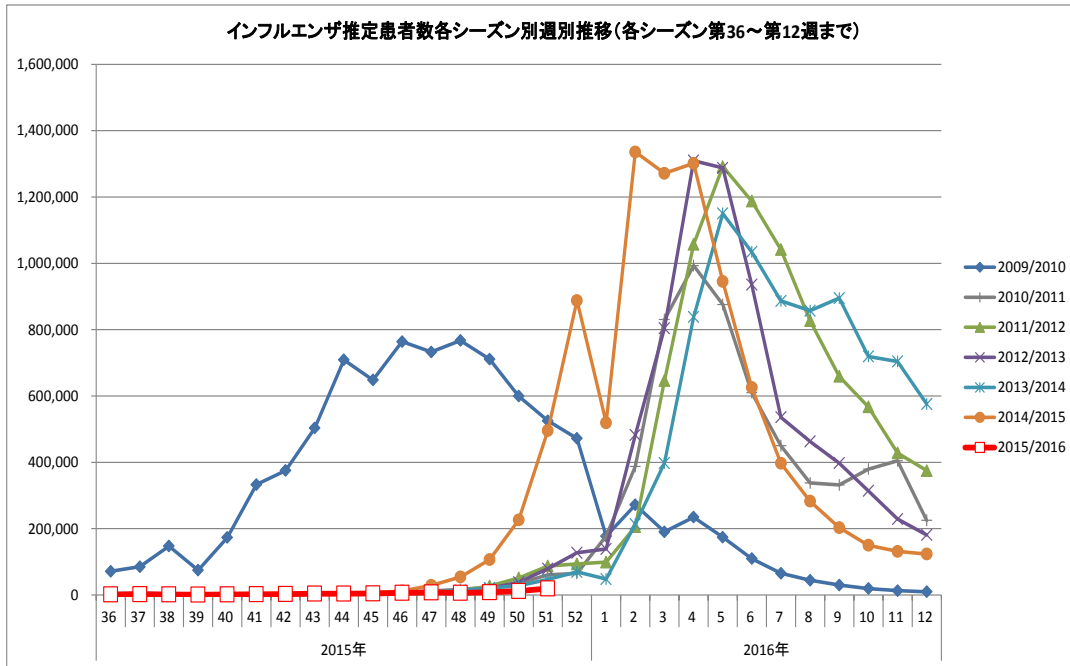


図 1. 過去 5 シーズンと今シーズン（2015/2016 シーズン）の第 36～52 週までのインフルエンザ推定患者数の週別推移

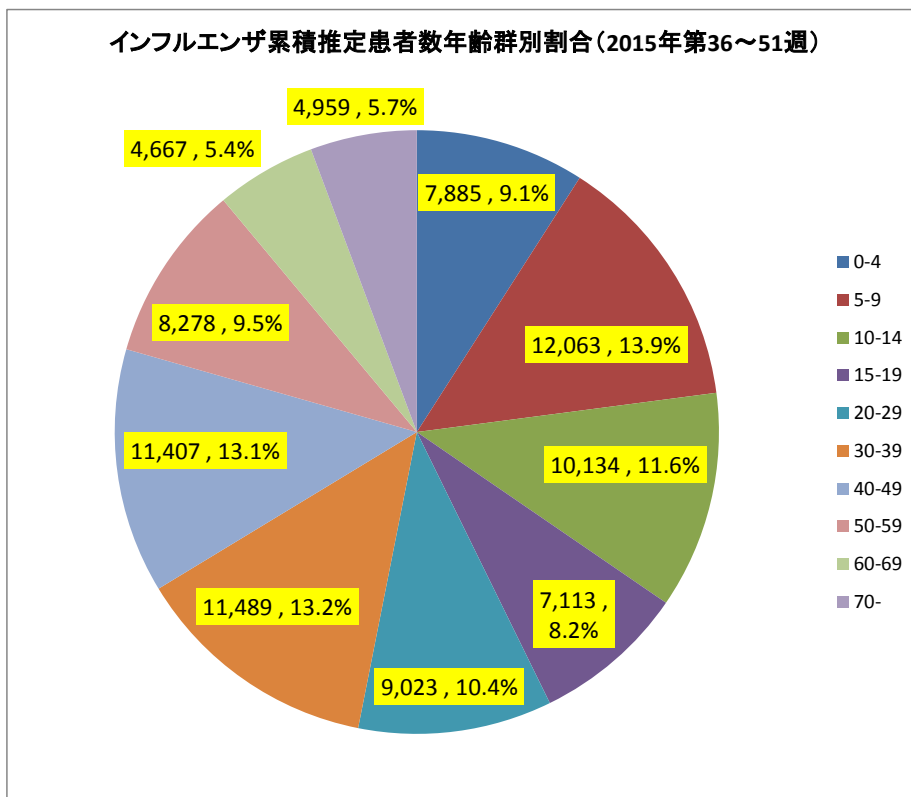


図 2. インフルエンザ累積推定患者数年齢群別割合（2015 年第 36～51 週、累積推定患者数=87,018）

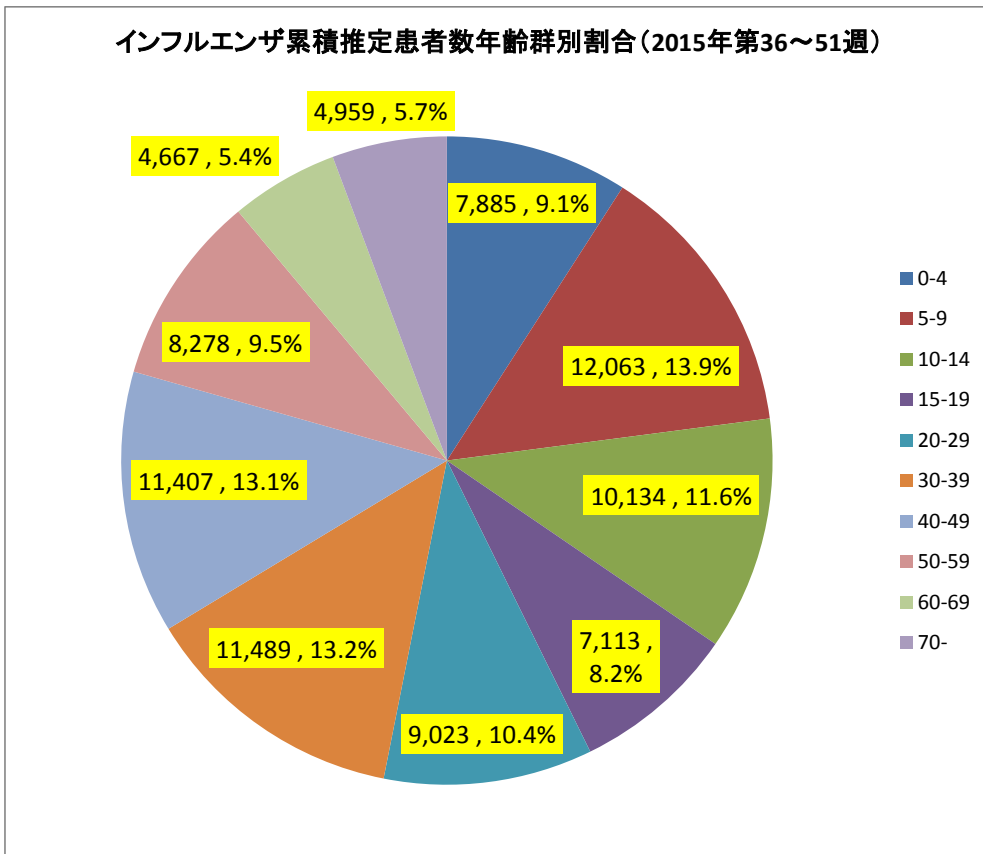


図 3. 2015 年第 36~50 週インフルエンザウイルス検出割合 (総検出数=175)